

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



編集発行人：濱塚有史 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1

TEL 019(623)1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

2008年5月号



でも、うんと一生懸命やればできるよ。

盛岡YMCA 所長 濱塚有史

盛岡YMCAでは、サッカー教室に通う子供たちの中から、希望者を募って、「ベスト・キッズ」というチームを作っている。スポーツ少年団に登録し、サッカー協会の主催する大会に参加して対外試合を行ったりする。

その、「ベスト・キッズ」の練習での一コマ。4人ひと組で二方向に分かれてのパス回しの練習、一方からパスを出すとその瞬間、向かい側に子供はダッシュしてボールを受け、すかさずパスを出す。そしてこの練習の大変な所は、パスを出した者はそれで終わりではなく、素早くパスを出した方向に移動し、次のパスに備えなければならない所だ。コートの内たる所で子供たちの息の音が聞こえてくる。

その中で、ある5年生のグループの一人がトイレに行つたため、3名になってしまった。4人でも大変なのに一人抜けたのだから案の定パスが回らない。監督が「この練習は、3人では無理だから戻ってくるまで待ってたら？」と言ったところ、K君がさわやかな顔で「でも、うんと一生懸命やればできるよ。」これ

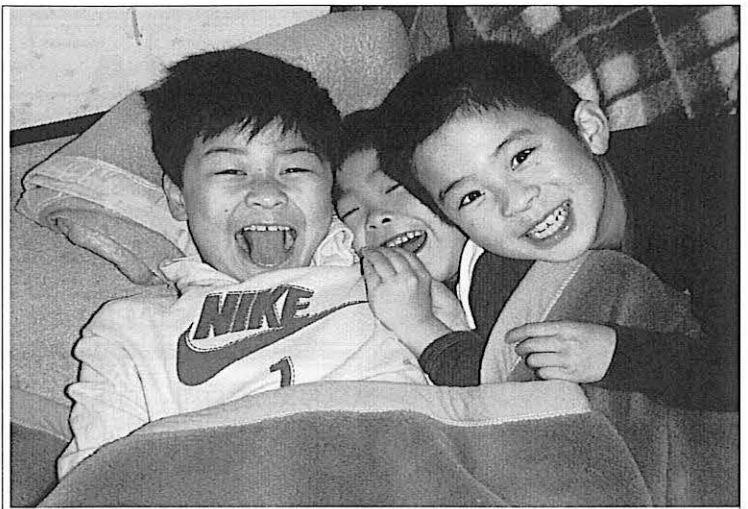
には、練習中はおっかない監督も苦笑い。「そんなに言うならやってみよう。」それからの子供たちのがんばりは、半端ではなかった。息をハアハア切らしながら、犬っころのように走ってとうとうパスは、回り出した。「すげえ、できてるじゃん。」監督もこの時ばかりは脱帽した様子。子どもたちの勝ち誇った笑顔が忘れられない。

僕たち大人は様々な経験を通して、ある程度の予測をたてることができる。でも、いつのまにか「どうせ、やってもできない。」「一生懸命やっても限度がある。」などマイナスな予測が多くなっているようにも思える。濱ちゃんもこれからの人生で、「もはやこれまで…」という場面に出くわしたら、K君のこの言葉を思い出そう！

「そうか。一生懸命やってもできないことも、うんと一生懸命やればできるんだ！！」

スプリングスクール

今年の春もスクールが無事終了しました。今回のスクールでは、プログラムの時間に何かを作る、工作プログラムが多く、3、4、5日目のプログラムは全てそうでした。内容は日ごとに違うものを行ったのですが、個人、グループで行っていた活動が、日を追うごとにごちゃ混ぜになって、皆で作っている雰囲気になっていました。特にこちらから形のあるキッカケを出したわけではなく、それは、参加している子ども達、そしてリーダー達が関わっていく中で、自然と出来上がってきた雰囲気だと、共に過ごす中で感じました。その時集まった子ども達、リーダー、スタッフ。そのメンバーでしか出来ない楽しさ、雰囲気があると思います。そのメンバーと一緒にいられる時間を大切に、様々な事を感じ、これからも様々な活動で共に成長していきたいです。



ぷらいむ・たいむ

今年度は、一気に6名が増え、14名でのスタートとなりました。その内5名の子どもが新一年生という事もあり、4月はバタバタしながらも、それぞれが居場所を見つける為のいわば探検の時間として共に過ごしていきました。1年生達にとって、日々を過ごす中で年上のお兄さん、お姉さんはとても大きな存在で、しぐさや言葉をどんどん真似たり、とにかくくっついて行くことがとても楽しい様子でした。

こうして、少しずつ新しい環境にもなれ、皆で外遊びをした日の事でした。サッカーをしていた1年生の子が、なかなか自分の思うように出来ず、「もういいっ！」といじけてしまいました。少し話をすると、もう1度頑張ってみるよ！」とまたサッカーにまざっていきました。そんなやり取りを見ていた3年生の子が、私の所に来て、「僕も1年生の時はずぐにいじけてたよね。」とぼつり。日々の何気ないやりとりの中で、年下の子は年上の子、年上の子は年下の子を見て、感じて、成長していくのだなと感じました。

盛岡YMCAスタッフ 小川 嘉文

サッカー合宿in宮古(3月28日~31日)



3月28日から31日までの3泊4日、ベストキッズとサッカークラブの子どもたち、そして4人のリーダーと1人のスタッフで宮古国民休暇村にサッカー合宿に行ってきました。今回のサッカー合宿は1人1人の課題とチームとしての課題、そしてチームの目標を全員が頭に入れ、丁寧にかつ思いきりサッカーに取り組みました。新人戦での悔しい敗戦や普段のサッカークラブを通じて自分達がもう一歩伸ばしたいと思っていることが3泊4日の練習を通してたくさんの場面で見られました。そして、夜のミーティングでは自分たちの練習を振り返り毎日のサッカーにつなげていこうという熱い気持ちが伝わるほどに練習風景のビデオに見入っていました。今回の合宿で参加した子ども1人1人が確実にレベルアップを果たし、チームとしても1つでも多くの課題をクリアできたように思います。

毎日練習開始前に全員で声を合わせた『チクサクコール』。練習中の真剣なまなざし、練習の合間に見せる笑顔。そして、雨の中泥まみれになってボールにくらいつく姿勢。その一つ一つがみんなの力となり、これからのサッカーにつながっていくことでしょう。今後のみんなの活躍を予感させるサッカー合宿となりました。今後の子ども達のプレーをぜひ楽しみにしてください。

帰りのバスではぐっすり眠る子と合宿のテンションそのままに大騒ぎする子。そして、満足感に満ちた顔がたくさん見られました。

文責：獅童（岩手県立大学4年浅沼慧）

春ばる行ったぞ松島へ♪

皆さん桜も咲き、暖かい季節になってきましたね。4月から1学年あがり、以前よりもお兄さん・お姉さんになっているのではないのでしょうか^_^

さて、先月の23~25日に宮城県松島自然の家に行ってきました。バスの中では、大ギャンブル大会をし、お金をにぎりながら、リーダークイズや変え歌などに夢中になっていました。松島自然の家に着いてからは、ご飯を食べ、野蒜海岸に出発♪目の前に広がる海と足元に落ちている貝殻の数々に目を輝かせながら、海に向かって叫んだり、貝殻拾いをしたり、それぞれのやりたい遊びをしていました。夜は各部屋でトランプをしたり、おしゃべりしたり、枕投げをしたりして楽しく過ごしました。二日目はあいにくの雨でしたが、午前中は体育館でサッカーやバドミントンなどをやり、思いっきり汗をかき、笑っている姿がたくさん見られました。午後は雨の中、釣りに行ったり、自然の家で貝殻と段ボールを使って飾りを作ったり、お絵かきをしたりしました。お絵かきの上手な子、見事な飾りを作る子や雨の降る中釣りざおを一生懸命握っている子などリーダー達がびっくりするような子どもの一面がたくさん見られ、子どもの夢中になった時のエネルギーはスゴイ！と感じました☆夕方には自然とお化け屋敷ごっこが始まり、どうやったら自分たちの部屋がお化け屋敷になるか一生懸命考えて、部屋を何度も改装し、そのたびに他の部屋のお友達を呼んで来て、驚かせたりしていました。男の子、女の子が一緒になって遊んでおり、その様子は部屋が本

当にお化け屋敷になってるのでは!?と思うほど楽しそうな叫び声が響いて、子ども達の個性が光ってました☆☆夜はキャンプファイヤーをし、真っ暗闇のなか目の前に燃え盛る火に感動している子どもが見られ、森のクマさんなどを歌いながら火の周りを歩き回り、最後はリーダーや子ども達が今までにあったたくさんの失敗を話しました。リーダー達もたくさんの失敗を繰り返して成長してきたんですね。その日の夜はみんな本当に疲れきっていて、布団に入ったらあつという間に寝てしまいました。最終日は、自分たちの部屋を協力して掃除し、最後のフリータイムへ!!最後は外でサッカー、海岸探検や丸太の上をどんじゃんけんしたりして遊びました。タニシやカニを捕まえたり、丸太の上をびくびくしながらどんじゃんけんをし、本当に楽しそうな顔や満足そうな顔などたくさんの顔をみる事ができました。帰りのバスはほとんどの子が寝ており、それくらい思いっきり遊びまくった3日間を過ごしました♪

つちのこ(岩手大学 教育学研究科1年 小原光史)



ティラリーダーのタイ日記(その②) たくさんのYMCA

みなさん、こんにちは。ティラノです。盛岡ではもう春を迎えていますか?今年の冬はどうでしたか?今、タイでは1年の中で一番暑い時期を迎え、タイの中にあるパヤオでも毎日汗をかきながら生活しています。5月の初めくらいまでの暑い時期が続き、そのあとは雨期がやってきます。

さて、私たちが活動しているYMCAは世界中124の国と地域にあります。その国や地域のYMCA同士の連絡を取り合うために世界YMCA同盟という組織があります。少し前の話になるのですが、1月にその世界YMCA同盟がユース(若い人たち)に向けてのプログラムを行い、それに参加しました。プログラムのメインは学習会やワークショップでした。それについては報告書に書いてあるので、今回はプログラムの中のちょっとしたことについて書きたいと思います。

このプログラムは本当に色々な国から参加者が集まりました。近いところではフィリピンやインド、日本などのアジア。遠いところでは南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカなどです。これだけの国の人たちが集まると、予想外のことや、わけのわからないことがたくさん起こります。プログラム初日の夕食では、ご飯を食べ、タイの伝統ダンスを見て終わる予定だったのですが、タイのダンスが終わると、アフリカやラテンの音楽がかかり、それぞれの地域の人たちが踊り始めました。気付くと他の人も踊り始め、まるで異文化ダンスパーティーです。最初はわけがわからなかったのですが、結局ダンスの輪に入っておもいっきり楽しんでいました。もちろん、踊ってばかりではなく、話し合いや学習会もしっかり参加しました。

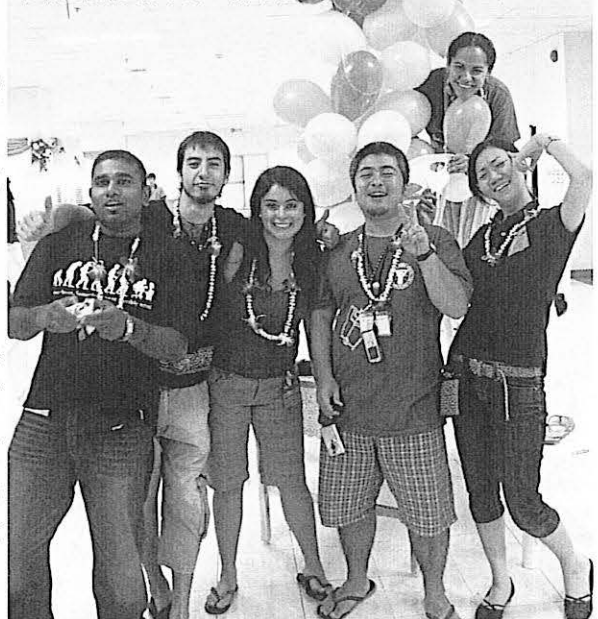
今まで他の人から聞いたり、リーダートレーニングを通して、YMCAが世界中にあることは頭の中でわかったつもりになっていましたが、今回本当に世界中にYMCAがあって、いろんな活動をしているということを感じ、知ることができました。それは、実際に色々なYで活動している人と関わり、それぞれの場所や文化の中で活動していること知れたからだだと思います。グローバルなプログラムでしたが、ローカルがたくさん集まっていたことを実感。ローカルの大切さも知ることができました。

今回はパヤオでの言葉のことについて書きたいと思います。ではまた。

大塚英彦君(ティラノリーダー)

バンコクYMCAパヤオセンター駐在ボランティアスタッフ

岩手県立大学総合政策学部4年生、盛岡YMCAリーダー。08年10月より、横浜YMCAから派遣されタイで長期ボランティアとして活躍中。横浜YMCAは、タイ・バンコクYMCAと協働で、人身売買の危機にある少女たちやエイズ孤児の子どもたちを救うプロジェクトを行っています。パヤオセンターに児童保護シェルター、ナコンパトムにエイズ孤児センター・ハッピーホームを建設し日本から長期ボランティアの派遣を行っています。



情報コーナー

5月の予定

- ★5月24日(土)～25日(日)
- アドベンチャークラブ
- 御所野縄文公園
- ★5月29日(木)
- 松園サッカー教室はお休み
- です。ご注意ください!
- ★5月31日(土)
- もりおかワイズメンズクラブ
- 第2例会(内丸教会)

6月の予定

- ★6月1日(日)
- ファミリーサッカーフェス
- ティバル(北松園小学校)
- ★6月8日(日)
- アドベンチャークラブ
- 水の生き物探検隊
- (中津川河川敷)
- ★6月12日(木)
- もりおかワイズメンズクラブ

- 6月第1例会
- (JARAN-JARAN)
- ★6月14日(土)
- 2008年度盛岡YMCA会員総会
- (日本基督教団内丸教会)
- ★6月28日(土)～29日(日)
- アドベンチャークラブ1泊活動
- カヤック体験
- (陸前高田野外活動センター)



サッカー合宿
「お部屋の中は大騒ぎ」
国民休暇村宮古

リーダー お勧めの本① そちこリーダー



「世界的にも有名な本ですが、私は大学生になってからきちんと読んでみました。童話にしては内容が難しいのですが、簡単に内容を紹介します。と思います。

「小さな星に住んでいた王子さまが世話をしていたバラとささいなことでけんかをしてしまい、住んでいた星を飛び出します。そこから始まった王子さまの長い旅ですが、さまざまな奇妙な大人たちとの出会いを経て、最後に地球にたどり着きます。それから、王子さまは砂漠に行き、キツネに出会い、人生について教えられる。それは「大切なことは目にはみえない」ということです。その事を教えてもらおうと、王子さまは小さな星で世話をしていたバラを思い出しました。どんなにほかに美しいバラがあろうとも、自分が精一杯の世話をしたバラはかけがえのない、自分にとって一番のバラなのだと思えるのです。そのことに気づくと、けんかして一度は別れた一輪のバラの住む小さな星に帰る決心をします。そして王子さまは小さい星に帰っていきました。王子さまがいろいろな人との出会いを通じて、自分にとって本当に大切なものを見つけるというお話でした。

…ちなみに、この本の中で私が一番好きなのはキツネと別れる場面です。王子さまは別れの悲しさから「相手を悲しくさせるのなら、仲良くなかならなければ良かった」と思います。けれどもキツネは「流れる風や風景の中に王子さまのことを思い出せるなら、仲良くなった事は決して無駄なこと、悪い事ではなかった」と答えてくれるのでした。》

私にとって友達とはすごく大切な存在です。特に高校生の時まで住んでいた秋田での親友は、お互いに笑ったり泣いたり、遠慮せずケンカしてわがままも言い合えるような、私にとってはかけがえのない存在でした。今ではみんな秋田を離れてほとんど会えなくなってしまったけれど、その「仲」は今でも変わりません。私はこの本を読んだ時にその友達のことが頭に浮かんで来て、今ではなかなか会えないその友達が私にとって、今もパワーになってくれていることに気づくことが出来ました。

きっとみんなもこれからたくさんの友達と出会っていくと思います。大切なものは目に見えない、、、だからこそみんなには自分が心で感じることをぶつけながら、本物の友達をたくさん作ってほしいなと思います。本の内容は難しいけれど、とてもすてきなお話なので、お父さんやお母さんに教えてもらいながら、ぜひ読んでみてください☆

では、キャンプやアドベンチャーやサッカーなどの機会に、また会いましょう!!

(文責：岩手県立大学4年 高橋明佑)

感謝

3月 U7年4月から2008年

順不同・敬称略

- 〇七年度維持会費
- 菊池弘生、大関靖二、長谷川精一、
- 菊池谷三千代、金田一世美子、菊池
- 崇江、井上修三、井上優子、井上浩
- 太郎、及川忠人、三田勝彦、濱塚秋
- 二、濱塚れい子、長岡正彦、角谷晋
- 次、角谷千代子、盛岡チャペル、越
- 前谷洋子、重石桂司、花松行雄、伊
- 藤克美、一戸貞文、清水弘一、金野
- 東輝子、岩崎スエ、伊藤真一郎、伊
- 藤真史郎、工藤直子、北田アユ子、
- 田村治之、深澤秀男、深澤多紀子、
- 神永瞳、石渡隆司、池田二郎、山口
- 貴伸、長谷川精一、川守田浩、吉崎
- 陽、古澤伸、及川茂夫、及川恵、竹
- 内一真、金城平真、金田節子、邊龍

雄

寄付金

- 〇八年度維持会費
- 石渡隆司、濱塚秋二、濱塚れい子、
- 盛岡チャペル、菊池弘生、三田勝
- 彦、越前谷洋子、伊藤克見、清水弘
- 一、北田アユ子、北田二郎、長谷川
- 精一、川守田浩、及川茂夫、及川
- 恵、邊龍雄、木村祐美子、杉下一郎
- 〇八年度維持会費
- 菊池谷三千代、大関靖二、濱塚秋
- 二、濱塚れい子、盛岡チャペル
- ◆ 盛岡YMCAの維持会員として
- YMCAの諸活動をお支え下さ
- い。
- 申し込み方法は、YMCAにお問
- い合わせ下さい。
- TEL 019-623-1575

～表紙の写真から～

アドベンチャー3月活動にて、松島の野蒜海岸で、打ち寄せる波に海岸で拾った棒を投げる向田拓実君(厨川小)。投げては拾い、拾っては投げる。延々と10分は繰り返したろうか?。大人の眼からは何をしているのだらうと思うこの遊び、でも、きっと彼の頭の中では様々なイメージが展開していたことだろう。子どもは、遊びを創る天才だ!(濱)

